学校番号	3030

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	美術Ⅰ	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「高校生の美術Ⅰ」（日本文教出版）						
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・前期は平面作品、後期は立体作品を中心に制作し様々な表現方法を学びます。
・取り扱う画材や素材の性質と特徴を理解し、技法や色彩に関する知識を学ぶことで作品制作並びに鑑賞の幅を広げることをめざします。
・画材や道具の正しい使い方を身につけます。
・作品制作と展示を通してものを作ること、見ることの意義について考え、自身の感性や美意識を高め新しい見方や捉え方の機会を作ります。

2　学習の到達目標

a)　制作活動を通し画材や素材の特性を理解し、基礎的な技法を身に付けるようにする。
b)　主題に対する考えや制作意図を自分の言葉で説明でき、それらを表現するために技法やアイデアを工夫する。
c)　美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、美術文化についての理解を深める。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・画材や素材､技法について理解している。【知識】 ・画材や素材､技法の基礎知識を踏まえ目的や意図に応じた応用ができている。【技能】 ・道具を正しく利用している。【技能】	・テーマについて自身の考えや表現したいものが明確である。 ・構図や色彩などの意図を説明できる。	・制作や活動における疑問点や改善点について自覚的である。 ・ノートへの制作メモを活用している。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期前半	オリエンテーション	芸術鑑賞レポート発表	c：鑑賞した作品や公演について調べたことや感じたことをレポートにまとめて作品の見方や感じ方の違い、共通点などについて自分の言葉で伝える活動に取り組んでいる。			レポート提出
	校内スケッチ(鉛筆)	校内で印象的な場所を選び、鉛筆で描く。	a:【知】鉛筆の種類による新の濃さや太さの違いを理解し表現意図に合わせて使い分けている。風景の描写と鉛筆の濃淡、練り消しの使い方など、表現意図に合わせて見せ方を工夫している。 b:【技】風景より感じ取った印象を効果的に表す構図で描いている。 c:少しずつ変化する風景の中から感じ取った美しさを表現するために主体的に取り組んでいる。	観察 作品	観察 作品	観察 ノート
前期後半	校内スケッチ(油絵)	校内で印象的な場所を選び、油絵具で描く。	a:【知】油絵具の性質と特徴を理解し、風景の色合いや質感を意識している。 b:【技】風景より感じ取った印象を効果的に表す構図で描いている。 c:絵具の作り方や筆の試し描き、制作の進捗メモを取りながら主体的に取り組んでいる。	観察 作品	観察 作品	観察 ノート
後期前半	ポスター	ポスターの役割を理解しテーマを決める。 テーマに合わせて使用する画材や素材を集め制作する。	a:【知】伝えたい内容を効果的に見せるための色彩や画材を理解している。 b:【技】テーマをより効果的に伝えるための画面構成やキャッチコピーを練っている。 c:自分の伝えたい内容と表現の意図や工夫などを明確にし、他者に伝えようとしている。	観察 作品	観察 作品	作品 ノート
後期後半	芸術文化発表会	授業で制作した作品を展示する。 他の芸術選択生の芸術を鑑賞し感想を書く。	a:作品の見せ方を工夫している。 c:自らが鑑賞者であると同時に作者でもある状況で作品制作と展示の意義について考えを深めている。	観察		ノート

	彫塑	粘土を利用し手を作る。	a:【知】テーマに合うポージングを考えている。ポージングによって生じる手のしわや筋肉、皮、爪などの細部を観察し作り込んでいる。 b:【技】手の構造を理解し針金で骨組みを作っている。手を多面的に捉えることができ、立体感のある粘土の使い方ができている。 c:ポージングを様々な角度から観察しスケッチしている。角度により異なって見えるところを把握している。	観察 作品	観察 作品	観察 作品 ノート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度